



カリフォルニアの風

サンフランシスコ日本語補習校 平成30年11月号

家庭学習強化週間終わる

サンフランシスコ日本語補習校では、9月29日(土)より10月13日(土)までを「家庭学習強化週間」として、保護者の皆様のご協力の下、家庭学習の習慣化に向けた取り組みと派遣教頭による教育懇談会を開催しました。おかげ様で一定の成果をあげることができました。ご協力ありがとうございました。補習校では、限られた授業日の中で、学習内容の確実な定着を図るため家庭学習を重視しています。もう一度、ご家族で本校に通う意義とともに家庭学習の意義について振り返って頂きたいと思います。

「家庭学習の取り組みに対するアンケート」の集計がまとまりましたので報告いたします。

平成30年度家庭学習強化週間アンケート調査結果報告

1 実施期間：平成30年9月29日～平成30年10月13日

2 回収率：80.0%

3 対象：幼小サンフランシスコ校保護者(291人)、幼小サンノゼ校保護者(407人)

4 集計の方法：低学年(1年+2年)、中学年(3年+4年)、高学年(5年+6年)に分けて集計

5 結果の概要と考察：

(1) 家庭学習の時間について

○宿題は全学年とも決まった時間に学習をしているが、「自分から進んで宿題に取り組む」児童が各学年とも50%台と少ない。

○「子供を自ら学びに向かわせること」は、学校、家庭教育における究極の目標の一つである。「主体的に学習に取り組む態度」が重要な学力の要素として捉えられていることから「自分から進んで宿題に取り組む」態度を育成するとともにその習慣化を粘り強く図る必要がある。

(2) 宿題の取り組みについて

○「音読、漢字、計算等の計画的な実施」では、「良くできた」と「できた」を合わせると低学年では87%、中学年では79%、高学年では77%と学年が進むとともに低くなっている。

○宿題は、予習や復習をすることだけではなく、学習の習慣化を図る上で重要な役割があることを念頭に高学年でも積極的に取り組むことが求められる。

(3) 家庭の支援について

○「テレビを消すなど学習環境を整えている」では、「良くできた」と「できた」を合わせると全ての学年において90%以上と高い数値であるが、学年が進むと「音読を聞くなど一緒に宿題に取り組む」ことが低くなっている。

○週1回のみ授業を行なう補習校では家庭での児童への学習支援が重要な役割を果たしている。物理的な環境だけではなく、子どもの学習に寄り添い、励ます等精神面での支援を高学年においても続けていく必要があると思われる。

6 まとめ

○補習校の授業日数は日本に比べ少ないため、「家庭は第二の教室である」を共通認識として、子供に家庭学習の習慣を身に付けさせるとともに、自ら進んで家庭学習に取り組む態度及びその習慣化が今後とも一層求められる。

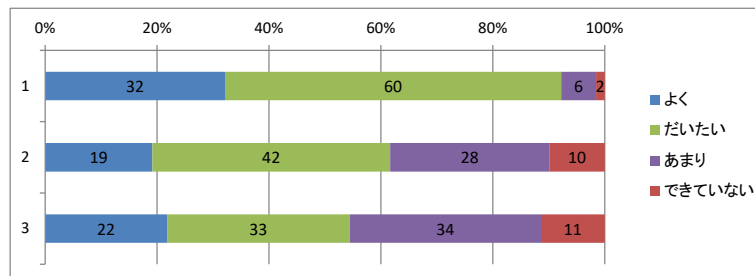
※低・中・高学年ごとの集計をグラフにしてありますのでご覧になってください。

高学年(5年+6年)

単位：%

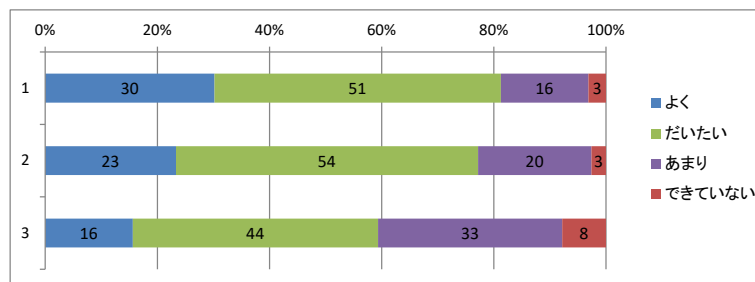
家庭学習の時間について

- 1 宿題をやる時間帯が決まっている
- 2 宿題をやる時間に自分から進んで取り組む。
- 3 家庭学習に取り組む時間(学年×10+10)分を守っている。



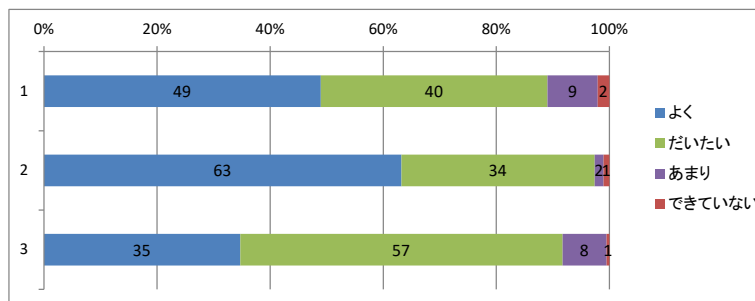
宿題の取り組みについて

- 1 ○○しながらではなく、集中して取り組んでいる。
- 2 音読、漢字、計算等の内容を計画的に実施している。
- 3 丁寧な文字で書いている。



家庭の支援について

- 1 音読を聞くなど、一緒に宿題に取り組んでいる。
- 2 テレビを消すなど、学習環境を整えている。
- 3 「早寝、早起き、朝ごはん」を徹底している。



****結果の概要及び考察****

- 「宿題をやる時間帯」では「よく」と「だいたい」を合わせると92%でほぼ決まっている。
- 一方、「宿題を自分から進んで取り組む」では「よく」と「だいたい」を合わせると61%で、家庭で主体的に学習に取り組ませる努力が一層求められる。
- 「(学年×10+10)分を守っている」では、55%と低学年、中学年に比べ低い。

- 「音読、漢字、計算等」は、学習をする上での基盤を成すものであるため、「あまり」「できていない」23%の児童については、今後確実に身に付けることが求められる。
- 丁寧な文字で書いているでは「あまり」と「できていない」を合わせると41%である。パソコンが日常的に使用され、文字を書く機会が少なくなる中で、文字に向かう姿勢と態度を培うことは、これから益々重要になってくると思われる。一層の努力が必要である。

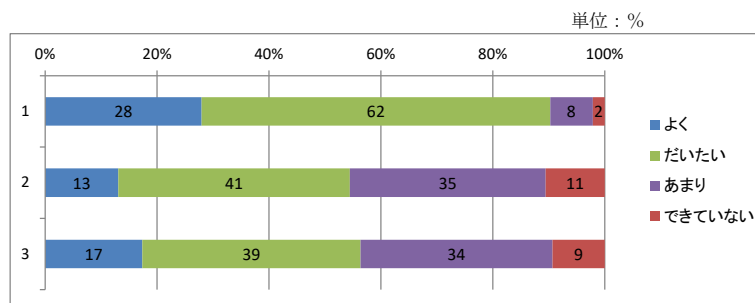
- 「一緒に宿題に取り組んでいる」では「よく」と「だいたい」を合わせると89%である。ある教育心理学者によると「母親より父親の介入の方が学習効果に及ぼす影響が大きい」ことが分かっている。

- 補習校の授業日数は日本に比べ少ないため、「家庭は第二の教室である」を念頭に、子供に家庭学習の習慣を身に付けさせるとともに、主体的に学習に取り組む態度の育成が求められる。

中学年(3年+4年)

家庭学習の時間について

- 1 宿題をやる時間帯が決まっている
- 2 宿題をやる時間に自分から進んで取り組む。
- 3 家庭学習に取り組む時間(学年×10+10)分を守っている。

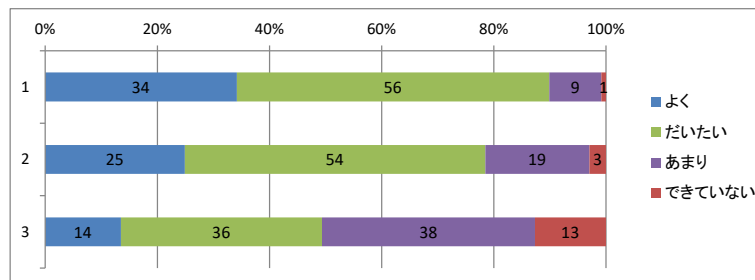


****結果の概要及び考察****

○「宿題をやる時間帯」では「よく」と「だいたい」を合わせると90%でほぼ決まっている。
○一方、「宿題を自分から進んで取り組む」では「よく」と「だいたい」を合わせると54%で、家庭で主体的に学習に取り組ませる努力が一層求められる。

宿題の取り組みについて

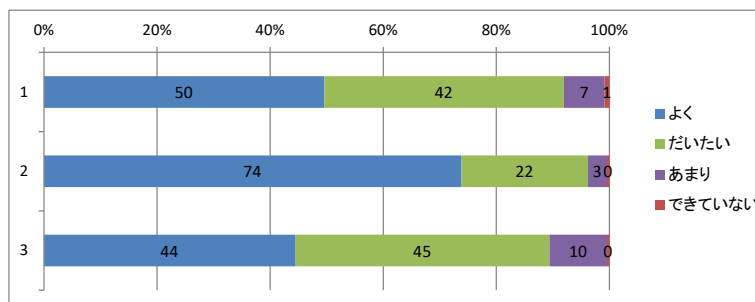
- 1 ○○しながらではなく、集中して取り組んでいる。
- 2 音読、漢字、計算等の内容を計画的に実施している。
- 3 丁寧な文字で書いている。



○「学習に集中して取り組んでいる」が「よく」と「だいたい」を合わせると90%と高く、いわゆる「ながら学習」をする者が少ない。
○丁寧な文字で書いているでは「あまり」と「できていない」を合わせると51%である。本調査で唯一マイナス面の評価がプラス面の評価を上回っており一層の努力が必要である。

家庭の支援について

- 1 音読を聞くなど、一緒に宿題に取り組んでいる。
- 2 テレビを消すなど、学習環境を整えている。
- 3 「早寝、早起き、朝ごはん」を徹底している。



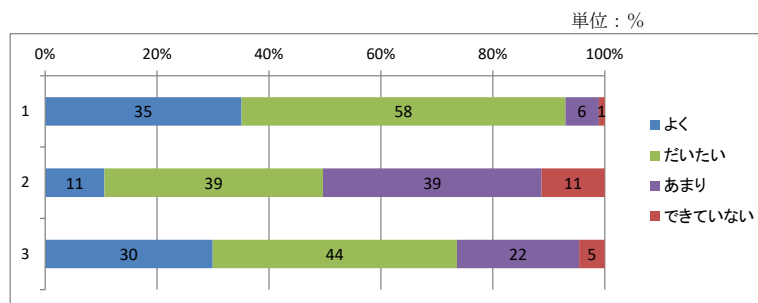
○「一緒に宿題に取り組んでいる」では「よく」と「だいたい」を合わせると89%である。ある教育心理学者によると「母親より父親の介入の方が学習効果におよぼす影響が大きい」ことが分かっている。

○「早寝、早起き、朝ごはん」の徹底では「よく」と「だいたい」で89%と高いが、低学年、高学年に比べ低い数値となっている。

低学年(1年+2年)

家庭学習の時間について

- 1 宿題をやる時間帯が決まっている
- 2 宿題をやる時間に自分から進んで取り組む。
- 3 家庭学習に取り組む時間(学年×10+10)分を守っている。

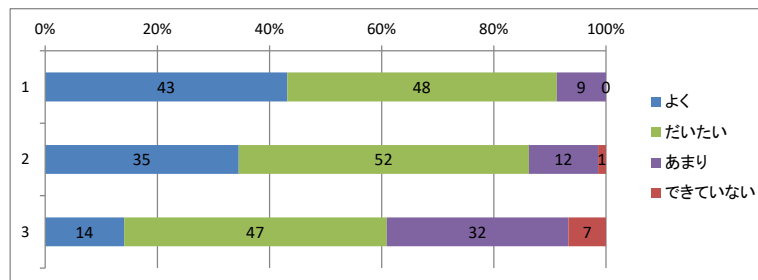


****結果の概要及び考察****

○「宿題をやる時間帯」では「よく」と「だいたい」を合わせると93%でほぼ決まっている。
○一方、「宿題を自分から進んで取り組む」では「よく」と「だいたい」を合わせると50%と高くない。家庭での学習に向かう環境を整えるなど進んで学習に取り組ませる工夫が一層求められる。

宿題の取り組みについて

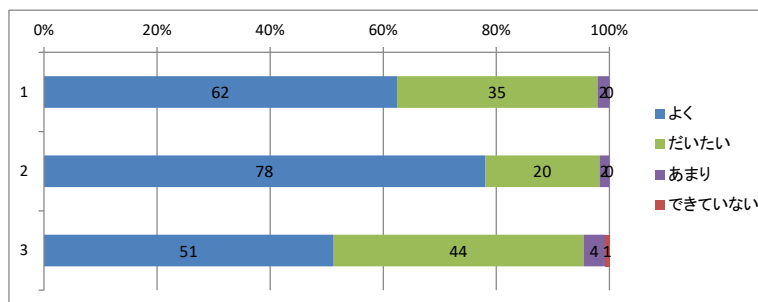
- 1 ○○しながらではなく、集中して取り組んでいる。
- 2 音読、漢字、計算等の内容を計画的に実施している。
- 3 丁寧な文字で書いている。



○丁寧な文字で書いているでは「あまり」と「できていない」を合わせると61%である。パソコンが日常的に使用され、文字を書く機会が少なくなる中で、文字に向かう姿勢と態度を培うことは、これから益々重要になってくると思われる。一層の努力が必要である。

家庭の支援について

- 1 音読を聞くなど、一緒に宿題に取り組んでいる。
- 2 テレビを消すなど、学習環境を整えている。
- 3 「早寝、早起き、朝ごはん」を徹底している。



○「一緒に宿題に取り組んでいる」では「よく」と「だいたい」を合わせると97%である。ある教育心理学者によると「母親より父親の介入の方が学習効果に及ぼす影響が大きい」ことが分かっている。

○補習校の授業日数は日本に比べ少ないため、「家庭は第二の教室である」を念頭に、子供に家庭学習の習慣を身に付けさせるとともに、主体的に学習に取り組む態度の育成が求められる。